

# 「あおり家庭教育アドバイザー養成講座」

平成28年5月30日(月)・6月8日(水) 八戸市福祉公民館 大研修室 参加者 1日目18名 2日目16名

「あおり家庭教育アドバイザー養成講座」が5月30日(月)、6月8日(水)の2日間に渡り、三八・上北地区の家庭教育支援に携わっている方々中心として、八戸市福祉公民館で開催されました。

【中村先生による講演】

今年度は文京学院大学 教授 中村 由美子先生を講師にお迎えし、1日目は「家庭教育の現状とあおり家庭教育アドバイザーの役割」そして2日目には「子どもの育ちと親の学びを支える～地域ぐるみの子育て・子育て支援について考える～」と題して、2日間に渡ってご講演をいただきました。



## 1日目「家庭教育の現状とあおり家庭教育アドバイザーの役割」について

- ・子育て親育ち・・・子育てをしながら親も育っていく。親育ちをサポートしていくことが、家庭教育支援アドバイザーとして大切な役割となる。
- ・核家族化により・・・小さな子どものお世話をする機会の無いまま、突然親になる。→支援者の存在が必要とされている。

## 2日目「子どもの育ちと親の学びを支える」について

### ・子どもの自尊心を育むヒント

“ほめる”ことを基本にしましょう。できたことは、ほめましょう。

家族の中の“強み”さがしのプロになりましょう。

### ・表情や語調を意識しましょう。“にっこり”

### ・“チクチク言葉”は少なく、“ふわふわ言葉”を多くしましょう。

例)「だいじょうぶだよ。」「ありがとう」など。

### ・コミュニケーションは何のために必要か。

コミュニケーションの目的は、共有化した集団の目的・目標を達成するために、誰が何をやるかの分担をはかることである。

【演習の様子】



## 保護者のみなさんへ・・・

- ・家庭では「勉強するってたのしい」という気持ちを育てましょう。
- ・家庭で勉強することが「たのしい」「自分の力になる」という実感をもたせること、自分なりの勉強方法を見つけさせることが大切です。

### ・子育てで大切なこと

親は子どもの様子を見て、その言葉に耳を傾け、子どものペースを感じながら、共に歩んでみようと心に決めることから、子育ての第1歩は始まります。

## 演習 あおもり親楽プログラムを体験してみよう

演習では、アイスブレイクを行った後、相手の立場に立った話し方、話し合いの進め方等、家庭教育支援者としての要素の確認を行い、それぞれが選んだ課題を通じ、「親楽プログラムの体験・作成」を行いました。



### <参加者のアンケートから>

- ・自分の子育てのことも含めて、わかりやすかったです。身近な人たちとのコミュニケーション時に、プラスにできることがたくさんありました。自分がパイプ役になればと思いました。
- ・自分の子育てを振り返ってみる時間をとれたことがとても良かった。話を聴く、話すことの大切さを強く感じました。
- ・家庭教育支援とは、親が子育てしやすくなるお手伝いをするのだと感じました。地域や家庭で見守る目を増やすことが大事だとは思いますが、現状では難しい部分もあると考えますので、たくさんの方が家庭教育支援について考えられる機会が増えればもっと認識されるかもしれません。

### <講師紹介>



中村 由美子 氏 (文京学院大学 教授)

2001年 青森県立保健大学健康科学部看護学科 助教授

2004年 同大学教授

2008年 同大学研究開発科長

2010年 同大学地域連携・国際センター長

2015年 文京学院大学教授

・青森県家庭教育支援推進協議会 会長 平成24年度～平成26年度